

臨床情報の研究利用に関するお知らせ

研究課題名 眼球運動課題を用いた Gilles de la Tourette (GTS) 症候群の病態生理の解明
研究機関名 医療法人社団昌仁醫修会 瀬川記念小児神経学クリニック
杏林大学医学部病態生理学
研究責任者 寺尾 安生 福田 秀樹 星野 恭子

研究の目的

トゥレット症候群の患者様では、大脳基底核のドーパミンという神経の異常が考えられています。そこで、当院では、衝動性眼球運動の検査を行い、脳内のドーパミンの評価をしています。GTS 患者様では、視覚誘導性サッカード (VGS) の潜時短縮と saccade to cue の頻度の増加を認め、記憶誘導性サッカード (MGS) では随意性サッカードの軽い異常 (潜時の異常、hypometria) を認めることがあります。前者の所見は大脳基底核の上丘という場所の脱抑制の所見として説明でき、後者の所見は基底核機能障害による随意運動の発現の障害を反映するものと考えられています。

研究対象および方法

この研究は、医療法人社団昌仁醫修会 瀬川記念小児神経学クリニック倫理審査委員会の承認を得て実施するものです。今回、1973年11月～2014年12月までのGTSの男性患者様110人と年齢を一致させた正常被験者の方26人において、視覚誘導 (VGS) および記憶誘導サッカード (MGS) タスクを用いて衝動性眼球運動を記録しました。この傾向は経過を追った症例でもみられ、治療上も重要な意味をもつと考えられています。

対象者： 1973年11月から2014年12月まで

瀬川小児神経学クリニックで診療を受けた方

方法： 診療録 (カルテ) から抽出したデータを解析します。

研究に用いられる資料・情報

情報： 病歴、診療の治療歴、検査結果

外部への試料・情報の提供

ありません。

個人情報について

研究に利用する情報は、患者様のお名前、住所など、個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌などで報告することがありますが、個人を特定できるような情報を利用することはありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報などを研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡ください。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

連絡先および担当者

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-8 瀬川ビル 2 階

医療法人社団昌仁醫修会 瀬川記念小児神経学クリニック

理事長 星野恭子

連絡先電話：03-3294-0371